

最新器械電音計劃出
自然大生體器官位置

人體內臟一覽圖解

阪本隆哉



屍體ト生體トニ於ケル内臟位置ノ區別

人體ノ内臟ハ屍體ト生體トニ由テ其位置ヲ異ニスルモノアルニモ拘ラス
從來ノ人多クハ是等ノ區別ヲ爲サズシテ總テノ内臟位置ヲ屍體ニ則トリ
生體ト生體トニ於ケルカ故ニ誤謬ヲ來スコト往々ニシテ之アル

カ如シ故ニ生體器官ノ位置關係ト其運動變態ノ形狀トヲ知悉スルハ病理
診斷上必要ノ事項ナリト信ス然レドモ古來未タ曾テ生活體ニ於ケル内臟

屍體ト生體トニ於ケル内臟位置ノ區別

位置ト其運動状態トヲ描出シタル圖譜ナキヲ遺憾トス是畢竟之ヲ描出スベキ器械又ハ方法ノ存セザルニ由ルナラン今回余ハ余カ發明ノ診斷器械電音計ニ頼リ墨線ヲ以テ數百ノ健體內臓ヲ直ニ其皮膚上ニ區劃描出シ且獸類ノ生體ヲ割リ人類ノ屍體ヲ割キテ之ヲ證明シ爰ニ初メテ生活體ニ於ケル内臓ノ位置關係ヲ世ニ公ニスルコトヲ得タルナリ

余カ電音計ハ彼エツキス光線ニ於ケル光波ノ如ク「マクネット」電機ニ發生スル特異ナル微細ノ音波ヲ用ヒテ如何ニ内臓器體ノ混亂重複シアルニモ拘ラス能ク之ヲ透徹分類スルコトヲ得ルモノナリ今也是器ニ頼テ發見シタル諸臓器ノ運動形狀ハ古來ノ生理說ヲシテ儘一新セシメタルモノアルヲ信ス例之ハ胃ハ規則正シク六七仙迷ノ運動即收縮膨脹ト共ニ幽門部

欠

MISSING

隔膜ヲシテ上行セシムルノ傾キアル等は頗ル注目スベキノ點ナリ

屍體上電音計ノ内臓區劃

屍體上電音由ニ計テ内臓ヲ區劃スルハ甚困難ノ業ニシテ筋肉已ニ水分ヲ含蓄スルトキハ自在ニ擦過スルヲ能ハス從テ區劃モ亦明瞭ヲ缺クコトアリ假令ハ明瞭ニ區劃シ得タリトスルモ剖視ノ後區劃シタル墨線ト内臓其物ト密ニ一致セザルハ當然ナリ然ルニ斯ク一致セザルヲ見テ冷笑シタルノ徒アルニ至テハ寧ロ憫笑ニ堪ヘザル所ナリ何ソ其レ斯ク醫學程度ノ淺薄ナルヤ慨嘆ニ堪ヘザルナリ余ハ該器械ヲ以テ屢々屍體胸部ノ區劃ヲ試ミ開視其物ト密ニ一致スベキモノニ非サルコトヲ確定スルニ至レリ今左ニ其理ヲ述シ

一屍體仰臥ノ位置ヲ取ルトキハ弛緩シタル内臓ハ沈底シ外壁トノ間ニ多少離隔ヲ生ス

一内臓ハ大抵圓形ヲ爲スカ故ニ生體ニ於ケルモ其圓端ノ中心部ハ外壁ニ接セザルナリ例之ハ心臟ハ外部ヨリノ墨線ニ比スレハ一仙迷餘大ナルベシ故ニ實際ハ墨線ニ比スレハ稍大形ナルモノナリ

一時日ヲ經タル屍體ハ瓦斯ヲ發生シテ胸腹ノ外壁ト内臓トノ間ヲ離隔ス病體殊ニ肺結核又ハ滲出液ノ貯留シタルモノ炎症性等ハ速ニ組織ノ變敗ヲ來シ瓦斯ヲ發生ス

一以上ノ場合ニ於テハ外壁ヨリ内臓ニ音響ヲ與フルモ其外壁ニ接スルノ部ノミ音響ヲ聽取スルコトヲ得テ隔離部ハ聽取スルコト能ハザルカ故

ニ其形自ラ小ナリ

一屍體ノ胸腔ヲ開クトキハ肺臟忽チ外氣壓ニ由テ收縮弛緩シ其容積ヲ減ス心臟ハ解體時處々ヨリ出血シ爲ニ胸腔内ノ血液ヲ漏シ多クハ空虚トナリ且外氣壓ニ由テ解體前ニ比スレハ多少弛緩縮小シ其容積ヲ減ス

右ノ理ニ由テ屍體上墨劃ト解剖後ノ位置ト密ニ一致セザルハ愚者ト雖亦容易ニ了解スルコトヲ得ベシ然ルニ從來屍體ニ就テ心肺ヲ打診シ墨劃又ハ刺針ヲ試ミ開視ノ内臓ト一致セザルヲ見テ不熟者ト爲ス者アリ頗ル滑稽ニ類似ス偶一致スルコトアルハ誤テ當レルナリ何ソ其レ思ハザルノ甚キ

電音計區劃上ノ注意

電音計ニ由テ區劃シタルモノハ實物ヨリ多少小形ナルヲ常トス圓形ナル

臟器又ハ總テノ管狀物例之ハ血管膽管輸尿管攝護腺精囊ノ如キハ外壁ニ接スルノ部狹小ナルカ故ナリ然レトモ腹壁ハ柔軟ナルカ故ニ電音器端ヲ以テ強壓スルトキハ粗々實物大若クハ之ヨリ稍大ナルコトアリト雖モ背面ハ硬固ナル骨若クハ筋腱アリテ自在ニ壓ヲ内器ニ及ボサス故ニ背面ト腹壁ノ圖トハ多小ノ差アルベシ而シテ圓形臟器ハ其厚徑大ナル程其差大ナルベシ之レ圓形ノ中心端ハ大ナルダケ外壁ニ接セサルノ部多ケレバナリ又心臟後面ハ少ク扁平ナルカ故ニ前面ニ比スレハ小ナリトス其他胃膀胱子宮等ハ前面ニ膨脹シテ後面ハ他ノ臟器ニ妨ケラル、カ故ニ自ラ其形小ナリトス

電音計ニ頼リ區劃セントスルニハ豫メ習熟者ニ就テ其説明ト使用法トヲ

習得スベシ然ルトキハ短時日ニシテ能其要領ヲ得ベシ否ラザレバ徒ニ長時日ヲ費スモ正確ニ區劃スルコト困難ナリ人一度熟練者ニ就テ習得シタル後該圖ニ據リテ屢々健體ノ内臟ヲ區劃練習シ大小長短ヲ比較シ能ク該圖ニ符合スルトキハ正確ナルコトヲ保證スルニ足ルナリ該圖ハ電音計ヲ以テ皮膚上ヨリ劃出シ墨線ヲ以テ描キタル原圖ヲ其儘複寫シタルモノニノ毫モ補飾シタル所ナキモノナリ

圖解

甲圖

胸腹部

1 右肺 Pulmonum dextrum

- 2 同上葉 Lobi pulmo. sup, dext,
- 3 同中葉 ” ” media ”
- 4 同下葉 ” ” inf, ”
- 5 左肺 Pulmonum sinistrum
- 6 同上葉 Lobi pulmo, sup, sinist,
- 7 同下葉 ” ” inf, ”
- 8 右氣管枝 Bronchus dextre
- 9 左氣管枝 ” ” sinistre
- 10 左右肺門 Porta pulmonis sinister et dexter
- 11 縱隔竇 Sinus mediastini

- 12 右心ノ上房 Atrium dexterum
- 13 右心室 Ventriculus dexter
- 14 左心上房 Atrium sinistrum
- 15 左心室 Ventriculus sinister
- 16 心 囊 Pericardium
- 17 左右肋膜囊 Sacci pleura sinister et dexter
- 18 大動脈弓 Arcus aorta
- 19 肺動脈 A. Pulmonaris
- 20 上大靜脈 V. Cav, superior
- 21 左無名靜脈 V. Anonyma sinist, et dext.

- 22 無名動脈 A. Anonyma
- 23 左鎖骨下動脈 A. Subclavia sinister
- 24 左普通頸動脈 A. Carotis communis sinister
- 25 胃噴門部 Cardia s. ostium oesophageum
- 26 胃管 Aesophagum
- 27 胃盲囊部膨脹 Dilatatio saccus coecus ventriculi
- 28 幽門部 Partio pylori
- (……)胃體膨脹及蟲樣突起 Dilatatis corpus ventriculi et processus vermicularis
- 29 肝臟 Hepar

- 30 肝臟厚徑 Crassities heparis
- 31 門脈管 Truncus venae portae
- 32 上胃靜脈 V. Gastrica superior
- 33 脾靜脈 V. Splenica
- 34 下腸間膜靜脈 V. Mesenterica inferior
- 35 上腸間膜靜脈 V. superior
- 36 膽囊 Vericula s. cystis fellea s. cholecystis
- 37 總輸膽管 Ductus choleduchus
- 38 胰ノ下行 Descendens pankrealis
- 39 胰ノ排泄管 Ductus pancreaticus s. wirsungianus

- 40 十二指腸 Intestinum duodenum
- 41 橫行結腸及盲腸 Colon transversum et intestinum caecum
- 42 小腸 Intertunum tenue
- 43 右左胸線 Linea sternua sinister et dexter
- 44 右左乳線 Linea mamilla sinister et dexter
- 45 右左副胸骨線 Linea sternua succenturiatus sinister et dexter
- 46 胸骨中線 Linea sternua medialis
- 47 上腹部 Regio epigastrica
- 48 中腹即臍部 Regio umbilica
- 49 下腹即小腹部 „ hpogastrica

- 50 右左腰部 „ lumbalis sinister et dexter
- 51 右左腸骨部 Regio ilia sinister et dexter

乙圖

背部

- 1 右左肺上葉 Lobi pulmo, sup, sinister et dext,
- 2 右左肺下葉 „ „ inf, „ „
- 3 右左肺門 Portes pulmo, sinister et dext,
- 4 右左氣管枝 Bronchus sinister et dext.
- 5 心左室後面 Facie posterius ventriculis sinister
- 6 心右室後面 „ „ „ dexter

- 7 左心上房 Atrium sinistra
- 8 肺靜脈 V. pulmonalis
- 9 肺動脈 A. „
- 10 肺動脈分枝 R. A. pulmonalis
- 11 大動脈 Aorta
- 12 上大靜脈 V. cav, superior
- 13 下大靜脈 „ „ inferior
- 14 腎動靜脈 A. V. Renalis
- 15 背面肝臟部 Portio hepatis in posterius
- 16 肝臟厚徑 Crassities hepatis

- 17 脾 臟 Lien s. splen
- 18 胃 管 Oesophagus
- 19 胃 Ventriculus, gaster, stomachus,
- 20 胰ノ上行 Ascendens pankrealis
- 21 腎 臟 Renes
- (……)副腎 Glandulae suprarenales s. capsura artribiliariae
- 23 腎皮質 Substantia corticalis
- 24 腎髓質 „ „ medullaris
- 25 腎 盞 Calices renalis
- 26 腎 盂 Pelvis

- 27 輸尿管 Ureter
- 28 精囊 Vesicula seminalis
- 29 輸精管 Ductus deferens
- 30 攝護腺 Prostata
- 31 膀胱 Vesica urinaria s. urocystis
- 32 十二指腸 Intestinum duodenum
- (.....) 橫行結腸 Colon transversum
- 33 S 狀屈曲部 Curvatura sigmoidea
- 34 直腸 Intestinum rectum
- 35 肩胛上部 Regio superior scapularis

- 36 肩胛間部 interscapularis
- 37 肩胛下部 inferior scapularis

内臓區劃摘要

抑内臓ハ其人ノ體格大小如何ニ由テ多少ノ差異アルモノナレハ病理診斷ニ先テ豫メ腹部胸廓等ノ測定ヲ要スルナリ余ハ常ニ左ノ三所ニ於テ測定シ之ヲ記載シ置クナリ

胸圍 左腋下中線ヨリ水平ニ左右兩乳頭ヲ超ヘテ右腋下中線ニ至ル一線上腹圍 左ノ腋下中線ヨリ左右季肋部ヲ水平ニ超ヘテ右ノ腋下中線ニ至ル一線

胸骨下 胸骨劔狀軟骨起根ヨリ臍ニ至ル一線

以上ノ三線ヲ調査ス

呼吸器

肺 臟

右上葉 尖端ハ三乃至四仙迷ニシテ下縁ハ背部第三背椎下ヨリ起リ
第五肋骨ヲ超ヘテ第四肋骨ノ下縁ヲ前方ニ走リ肺内縁ニ達ス
同中葉 後腋下線ヨリ起リ中腋下線ニ至リ第五六七肋骨ヲ横キリ副
胸線ノ終點ニ於テ肺下縁ニ達ス
同下葉 中葉ト肺ノ下縁トニ由テ三角形ヲ爲ス
左葉 上葉ト下葉トノ境界線ハ第三背椎下ヨリ起リ腋下線ニ於テ第
五肋骨ヲ超ヘテ五六七肋骨間ヲ横キリ副胸骨線ノ終點ニ於テ肺縁ニ

達ス

左右肺下縁 前下縁ハ斜ニ外方ニ走リ第八肋骨乃至第九肋骨ニ至ル
後下縁ハ第十一背椎ニ至ル

肺門 縦徑六乃至七仙迷半横徑四乃至五仙迷半ナリ右肺門ハ左ニ比
スレハ一仙半乃至二仙半高位ニアリ

肺ノ運動 安靜呼吸ニ由テ大約三仙迷深呼吸ニ由テ四仙迷半ノ運動
ヲ爲ス肺内縁ノ心臟ヲ被フノ部ハ安靜呼吸ニ由テ六七ミリメートル
ノ運動ヲ爲ス

肋膜囊 肋膜囊ハ部處ニヨリテ廣狹ヲ異ニス最廣部ハ肺下縁ニシテ二仙
乃至二仙迷半ナリ

縦隔竇 最廣部ハ一仙迷半乃至二仙迷ナリ

氣管及氣管枝

氣管 ハ幅徑一・五乃至二仙迷

氣管枝 ノ前胸部ハ第一二肋軟骨間胸骨ノ裏面ニ應シテ分岐シ背部ハ第四背椎部ニ於テ左右ニ分岐ス

左氣管枝 稍細クシテ其長サ大約四乃至五仙迷

右氣管枝 其長サ大約三仙迷

血行器

心臓

基根ハ第二肋軟骨附着部ノ下縁ニアリ下底ハ第五六肋骨間ニ達ス

心臓ノ最廣部ハ第四肋骨部ニシテ大約十仙半乃至十二仙迷ナリ胸骨中線ヨリ左方七乃至八仙迷右方三乃至四仙迷ナリ胸骨縁ヲ距ルコト右方一仙半乃至二仙半ナリ

左右室ノ境界ハ左ノ第二肋軟骨附着部ヨリ彎形ニ一線ヲ引キテ心尖ニ至ル

右心ノ上房ト室トノ境界ハ右ノ第二肋軟骨附着部ヨリ左ノ第三肋軟骨附着部ヲ通過シテ右ノ第五肋軟骨附着部ニ稍彎線ヲ引劃ス

心嚢 頂巔ハ殆ト第一肋軟骨附着部ノ下縁ニ達ス厚徑ハ三乃至五ミリメートルナリ

大動脈 起根部ハ第二肋軟骨附着部ヨリ鎖胸關節ノ下縁近部ニ於テ

弓部トナル幅徑二仙乃至二仙半ナリ
肺動脈 起根部ハ第二肋軟骨下縁ヨリ大動脈弓下ニ至ル幅徑二仙乃至二仙半ナリ
上大靜脈 ハ右胸骨側ヲ下行シ第二肋軟骨附着部ニ達ス幅徑一仙半乃至二仙迷
下行大動脈 背部ヨリ檢スルトキハ上部ハ背椎ノ左側ニアリ下部ハ背椎前面ヲ下行ス幅徑大約二仙乃至二仙迷半ナリ弓部ハ第三背椎體ノ左側ヨリ左ニ彎曲シテ後縱隔膜腔ニ至リ此ニ下行大動脈トナリ横隔膜ノ大動脈孔ヲ通過シテ腹部大動脈トナリ第四腰椎部ニ於テ分岐シテ普通腸骨動脈トナル

下大靜脈 背椎ノ右側ヲ上行シテ心臟ノ右室ニ達ス幅徑約二仙乃至二仙半ナリ
腎動靜脈 稍大ナル血管ニシテ第二腰椎部ニ於テ大動脈及大靜脈ヨリ分岐ス
心囊液 ハ心臟下縁ヨリ上大約二仙乃至三仙迷ナリ

消化器

胃及腸

胃ハ各人大小一定セス且盈空ト膨縮トニ由テ多少大小ヲ異ニス本邦人ハ其下底大抵臍部若クハ之ヨリ一二仙迷ノ上ニアリ充實時ハ胃底即盲囊部ニ於テ膨脹スルトキハ第五肋骨部ニ達シ胃體即胃ノ右壁膨

脹スルトキニ右ノ季肋下ニ於テ測ルトキハ右側壁縁ハ右ノ乳線部ヲ超ヘ收縮スルトキハ其縁殆ト胸骨中線ニ近ツク
 幽門部 ハ胃ノ收縮膨脹ニ從テ三仙以上ヲ上下ニ運動ス幅徑大約三仙乃至四仙迷ナリ

胃管 ハ第五六頸椎間ニ始マリ下行シテ噴門ニ達ス其長サ二十乃至三十仙迷ナリ横徑ハ一仙乃至一、五仙迷ニシテ食物嚥下ノ際ハ稍擴張シテ三乃至四仙迷ニ至ル最初ハ氣管ト背椎トノ間ニアリテ漸次左方ニ偏シ胸腔ニ入りテ氣管ノ左側ニ接シ左氣管枝及大動脈弓ト交叉シ後大動脈ノ右側ヲ下行シ次テ其前側ヲ左方ニ横キリ食道裂孔ヲ通過シテ噴門ニ達ス其形狀ハ少ク螺旋狀ヲ爲シ上中下三所ノ狹隘部ヲ

有ス上部ハ其起始部中部ハ氣管枝分岐部下部ハ横隔膜ヲ貫通セントスルノ部ニアリ下部ハ胃ノ運動ニ從テ三仙以上ノ運動ヲ爲ス
 十二指腸 臍ノ運動ト胃ノ運動ニ隨伴シテ三仙迷以上ノ運動ヲ爲ス幅徑ハ大約三仙乃至三仙迷半ナリ胃體膨脹時ハ殆ト二倍ニ達ス
 空腸 上部ハ十二指腸ニ從テ運動ス其他消化ノ際自家運動ヲ爲ス幅徑三仙乃至三仙迷半ナリ
 廻腸 幅徑二乃至二仙半ナリ
 横行結腸 上行結腸ニ比スレハ幅徑少ク廣ク大約四乃至四仙迷半ナリ横行結腸ハ生活體ニ於テハ正ク横行スルモノニアラスシテ彎弓形ヲ爲スモノナリ盲腸部ハ膨脹ス

上行結腸 ハ盲腸部ヨリ臍下ニ向テ上行シ横行結腸ニ移ルノ部ハ屈折シテ右季肋内ニ入り第八肋骨部ニ於テ肝臓底面ノ凹陷部ニ應ス
 下行結腸 ハ横行結腸ヨリ移ル部分ニ於テ彎折シ左季肋内ニ於テ脾臓ノ下部ニアリ下行シテS狀屈曲トナリ直腸ニ移ル
 直腸ハ結腸ノ下部ニシテ薦骨岬ノ左側ヨリ下行シテ肛門ニ終ル此部移動性ニシテ人ニヨリ時ニヨリ其位置ヲ變スルコトアリ從テS狀屈曲部モ亦變形スルコトアリ
 蟲様突起 其位置一定セス其長モ亦不等ニシテ二仙乃至二十仙迷ナリ幅徑ハ五三ミリ乃至一仙迷ナリ然レモ初生兒ニ於テハ廣クシテ盲腸ト區別スルコト難シ大人ニ於ケルモ廣クシテ小腸ノ大サヲ有スル

肝臓

コトアリ或ハ全ク缺如スルコトアリト云フ

前面ニ於ケル肝ノ上面ハ横隔膜ノ凹面ニ應シ最高嶺ハ右ノ副胸線上第四肋骨下縁ニアリ最高嶺ヨリ下縁ニ至ル縦徑ハ後面ニ比スレハ長クシテ大約十五仙乃至十六七仙迷ナリ背面ノ高嶺ハ肩胛下角ニ接シテ肩胛骨線部ニ應ス其部縦徑大約十一乃至十三仙迷ナリ横徑ハ前面ニ於テハ約二十乃至二十五仙迷ナリ
 胸骨中線部ニ於テ左右兩葉ヲ分ツ左葉ハ稍方形ニシテ其大サ人ニヨリテ不等ナリ
 肝臓實體ノ厚徑ハ右ノ副胸骨線部ニ於テ最モ厚ク前面ハ大約六七仙

迷ニメ後面ハ右ノ肩胛線部ニ於テ五六仙迷ナリ

膽囊 ハ梨子形ニシテ其廣部ハ横徑二乃至三仙迷長サ六乃至八仙迷ナリ

輸膽總管 ハ其長サ六乃至八仙迷ニシテ管ノ口徑鵞毛管大ナリ十二指腸及脾ノ運動ニ從テ常ニ運動ス

門脈即消化器靜脈管

上胃靜脈、脾靜脈、上腸間膜靜脈下腸間膜靜脈ノ四脈ヨリ成リテ肝管ニ接スルノ部ニ於テ大約一仙迷ノ幅徑ヲ有ス胃及脾ノ運動ニ從テ常ニ運動ス

脾臟

脾ハ其長サ十七乃至二十仙迷ニシテ頭部ハ大ニシテ尾部ハ小ナリ中央ノ體部ハ幅徑三乃至四仙迷ナリ脾ノ排泄管即(ウイルソングー氏管)ハ體ノ全長ヲ走ルモノニシテ十二指腸ニ近キ處ハ最モ廣ク二乃至四ミリメートルノ口徑ヲ有ス且此部ニ太キ枝管アリ「サントリニ」氏「管」ト云フ又發達シタル副脾管ヲ有スルコトアリ其他上部又ハ下部ニ副脾ヲ有スルコトアリ
脾ハ胃ノ運動ニ隨伴シテ上下ニ三仙迷以上ノ運動ヲ爲ス

脾臟

左季肋部ニアリテ稍斜ニ背面脊柱ニ向テ走リ其外端ハ脊柱ノ棘狀突起ノ外方五乃至六仙迷ノ部ニ至ル其內端ハ腋下線ニ達ス然レトモ脾

ハ體位ノ變態ニヨリテ容易ニ位置ヲ變轉シ或ハ腋下内縁ヲ超ヘ或ハ腋下外縁外ニ至リ殆ト一定セザルモノトス故ニ從來ノ如ク腋下線ヲ超ルヤ否ヤヲ以テ脾ノ腫大ヲ鑑定スルカ如キハ滑稽ニ類ス

脾臟ノ腫大ヲ診決スルニハ其長サト廣サトヲ測ルヲ以テ確實ナリトス其縱徑ハ大約十一仙半乃至十三仙迷ニシテ横徑ハ六乃至七仙迷半ナリ然レモ外部ヨリ圓ク肋骨ニ應シテ測ルトキハ縱徑十四乃至十五仙迷ナリ

脾ノ後縁ハ鈍ニシテ厚ク前縁ハ薄クシテ屢々角度ヲ爲シタル截痕ヲ有スルコトアリ或ハ截痕深クシテ副脾ヲ爲スコトアリ

泌尿及生殖器

腎臟

縱徑ハ九乃至十一仙迷ニシテ横徑ハ四、五乃至五仙迷ナリ腎盂ノ起根部ノ外側マデヲ合算スレバ五、五乃至六、五仙迷ナリ女子ハ男子ニ比スレバ縱徑大約二ミリ乃至四ミリメートル小ナリ又右ハ左ヨリ短カキコト大約二ミリ乃至五ミリメートルナリ

皮質 幅徑七ミリ乃至一仙

髓質 幅徑三乃至三仙半

腎竇及腎蓋部 縱徑二乃至三仙迷横徑一仙乃至二仙ニシテ腎盂起根部ノ外側マデヲ合算スレバ二仙乃至三仙迷ナリ

腎盂 起根部ニ於テ横徑一仙乃至一仙迷半ナリ

副腎 縦徑一仙半乃至二仙半横徑五乃至六仙迷鈍圓ニノ半月狀又ハ
三角形ヲ爲ス

膀胱

中度ノ膨脹ハ大約縦徑十一仙迷横徑十仙迷女子ハ男子ヨリ小ナリ

攝護腺

縦徑三仙乃至四仙迷幅徑二仙半乃至三仙迷

精囊

縦徑三乃至四仙半幅徑七ミリメートル乃至一仙迷兩側大小多少不同
ナルヲ常トス且人ニヨリテ稍異ルコアリ精囊及攝護腺ハ實物ニ比ス
レバ小形ナリトス是圓形物ナルノミナラス薦骨後面ヨリ區劃スルニ

由ル從來ノ解剖記載ニヨレバ西洋人ニ於テ攝護腺ハ縦徑三、二乃至
四、二仙迷ニシテ幅徑三、五乃至五仙迷ナリ精囊ハ幅徑一、五乃至
二、四仙迷ニシテ長サ四乃至五仙迷ナリ
輸精管 副睪丸ノ連續ニシテ其長五十乃至六十仙迷ナリ而シテ電音計ニ
ヨリテ劃出スベキ部分ハ第五腰椎ト攝護腺トノ間ニ僅ニ二仙迷内外
ヲ現ハスニ過キズ

8/5/41

明治四十年二月二日印刷
明治四十年二月五日發行

正價金壹圓六拾五錢

不許
複製

著者兼
發行者

印刷者

印刷所

東京市牛込區市ヶ谷柳町二拾五番地

阪本隆哉

東京市麴町區有樂町二丁目一番地

中村政雄

右
報文社

東京市本郷區湯島切通坂町八番地

同市本郷區春木町二丁目廿二番地

同市本郷區眞砂町十四番地

發兌元

南江堂
半田屋
電音社

阪本隆哉先生著

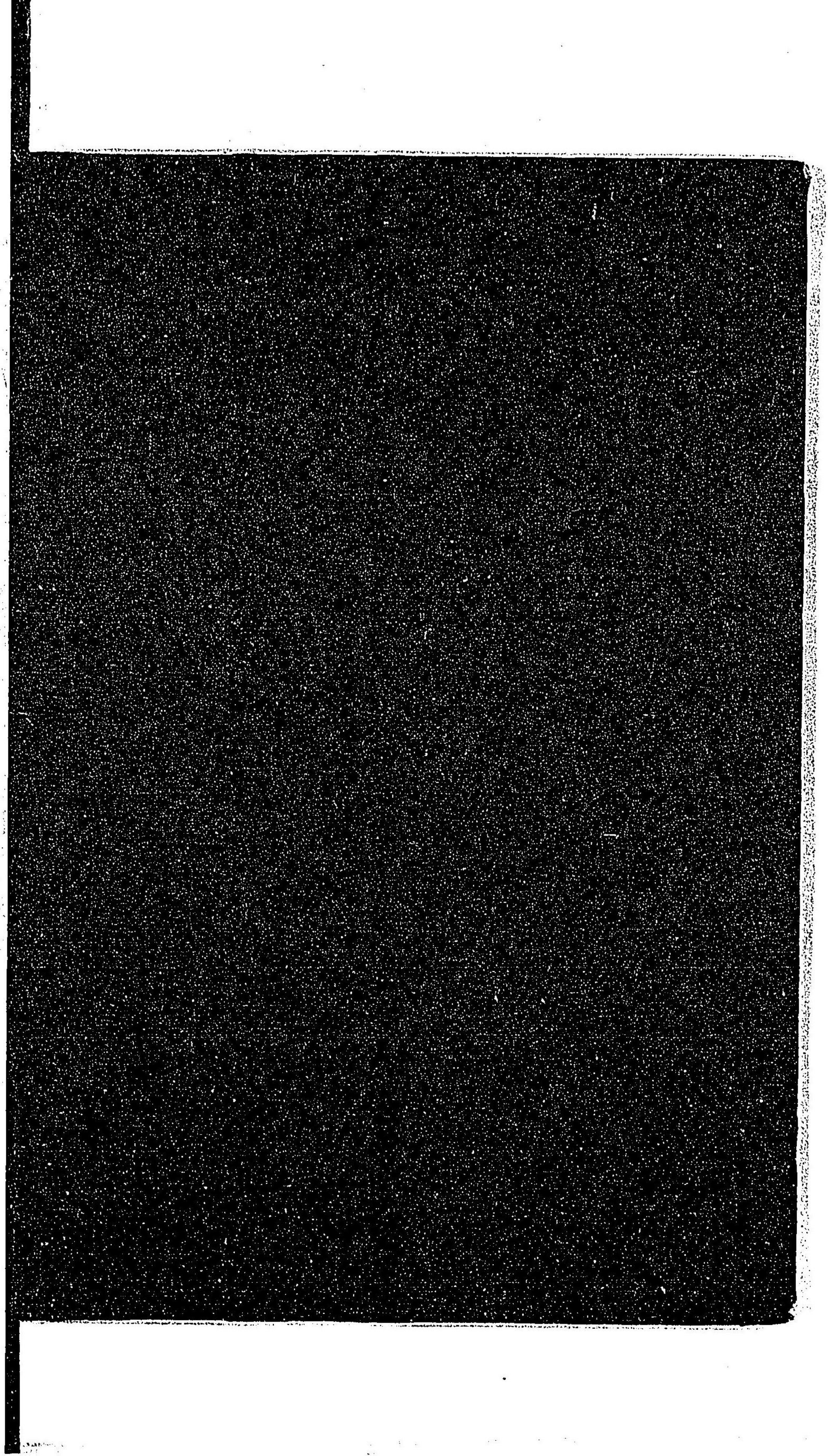
訂大増補改電音計診斷學 上編 定價 金壹圓

今古未曾有ノ發見ニ係ル阪本隆哉先生ノ電音計診斷ハ彼エツキス光線ノ光波ニ於ケルカ如クマゲ子ツト電氣ヨリ發生スル電氣音波ノ迅速微妙ナル作用ニ藉リテ人體全身器官ノ複雜重疊ナルニモ拘ラス能ク之ヲ透徹シテ明晰ニ且微細ニ分界標示シ自在ニ人體皮膚上ニ其器管ヲ描出シ得ルモノニシテエツキス光線ニ於ケル一ノ暗影ヲ認ムルカ如キモノニ非サルナリ第一版刊行以後日ニ月ニ急速ノ進歩ヲ遂ケ今也進テ其止マル所ヲ知ラサルカ如シ故ニ今回ノ第二版ニ於テハ彼ノ曖昧模糊タル生理的ノ心臟運動ノ如キハ頗ル明瞭トナレリ即筋質ニ於ケル螺旋運動大動脈肺動脈ノ瓣膜閉作用ニ尖瓣三尖瓣ノ開閉運動左右房室各自ノ收縮舒張腱索肉柱ノ運動作用及ヒ右房ニ於ケル卵圓孔テベシ一氏瓣エースタキ一ス瓣冠狀動脈ノ起根分布等分明ニ區別描出シ外部ヨリ直ニ之ヲ目撃スルコトヲ得ルニ至レリ其他子宮卵巢喇叭管ノ形狀膀胱子宮等ノ內腔腎臟心臟等ノ厚徑大動靜脈ノ經過分岐及之ヨリ發スル分枝ノ形狀胃及胃管門脈膽管脾臟等ノ運動形狀肝脾腎子宮卵巢等ノ各年齡ニ於ケル比較尺度等ヲ記悉シ殊ニ區別方法ノ順序ヲ詳説シ一々立證點ヲ示スカ如キ大々的増補ヲ爲サレタリ

發兌元 本郷區南江堂 同區春木町半田屋 同區眞砂電音社

49

38



058250-001-3

49-38

人体内臓一覽図解

阪本 隆哉/著

M40

CBB-0451

